



# 第10回やまぐち高校生県議会に 参加してきました！

宇部・萩地域版

R6.10.29 開催



## 高校生県議会って？

次代を担う県内高校生に県議会の役割や県行政への理解と関心を高めってもらうため、平成27年度から実施されている模擬議会

## 議長開会宣言



開会宣言する  
柳居議長

## 第10回記念ミニコンサート



第10回の開催を記念して、山口中央高等学校オーケストラ部と合唱部の皆さんの演奏による、ミニコンサートを開催しました！

## 高校生議員の自己紹介



## 高校生議員からの質問及び執行部答弁

全国の国民医療費が増加する中、全国と同様に、山口県の医療費も増加傾向にあり、1人あたりの医療費は全国6位と上位に入っています。

医療費の増加を抑える方法として、健診受診や健康づくりの取組等により、健康寿命を延ばすことが考えられますが、県ではどのような政策をお考えでしょうか。



質問に立つ  
實藤議員

県では、健康寿命の延伸に向け、若者から高齢者に至るまで、世代に応じて、市町や学校、企業等と連携し、県民の主体的な健康づくりの推進に取り組んでいます。

若い世代については、適正な食習慣の定着が重要であり、栄養士や食生活改善推進員が、日々の食事と将来の健康に関する講習や、手軽に野菜を増やす料理教室を学校等で行い、そのレシピ等を県のホームページで公開するなど、啓発の強化に努めることとしています。

併せて、若い世代の健康意識の向上を図るため、SNSを活用して友人等へ健康情報を発信する「健康応援学生サポーター」を養成しており、今後も県内各地でサポーターを増やして、その取組を拡充してまいります。

また、働く世代については、健診受診や疾病予防の重要性に関する専門医の講習会を開催するとともに、従業員の健康づくりに取り組む企業を「やまぐち健康経営企業」として認定し、職場での健康づくりの機運を醸成しています。

さらに、高齢世代については、心身の健康保持が重要であるため、市町と連携し、地域の仲間と集まる「通いの場」で、栄養指導や健康体操等の介護予防教室を開催するなど、健康的な生活習慣の維持に向けた取組を進めています。

こうした取組に加え、運動習慣の見える化・日常化を図るため、「やまぐち健幸アプリ」を配信しており、今後とも内容の充実とさらなる普及に取り組んでまいります。

人生100年時代の本格的な到来を踏まえ、県民誰もが健やかで心豊かに暮らせる山口県の実現に向けて、県民の生涯を通じた健康づくりを積極的に推進してまいります。

答弁する  
村岡知事

實藤議員（萩光塩学院高）と山本議員（厚狭高）が、宇部・萩地域を代表して質問をしました！

人口減少が止まらない山口県の現状を踏まえると、地域コミュニティの拠点となっている学校を再編統合してしまうことで、より人口減少・過疎化が進むのではないのでしょうか。

地域の魅力・特色を生かしたプロジェクトを実施すれば、地域内外からも進学者は増え、地域の活性化につながるのではないのでしょうか。

学校の統廃合以外の、何か良い考えや案がありますか。



質問に立つ  
山本議員

本県では、全国に先駆けて全ての公立学校に導入したコミュニティ・スクールを核として、子どもたちの成長段階に応じた地域連携教育に取り組んでおり、山本議員が通われる厚狭高校をはじめ、各高校においても、地域食材等を生かした地元企業との商品開発や、環境や観光に関するイベントへの参画など、学校・学科の特色や専門性に応じた様々な取組が進められています。

一方で、急速な少子化の進行により、本県の中学校卒業生数は、現在の一学年1万1千人から、15年後には約7千人へと、4千人減少する見込みです。

現在の学校数のままでは、各学校の規模が小さくなり、選択科目や部活動の種類が減少し、体育祭や文化祭などの内容も縮小せざるを得なくなることから、選択幅の広い教育や集団での充実した特別活動を展開していくためには、地域バランスも考慮した上で、学校・学科の再編整備は避けて通れないものとなっています。

さらに、一定の学校規模を確保することで、生徒の皆さんが、地域や社会の多様な方々と連携・協働して様々な活動を続けることができるなど、豊かな学びの実現につながるものと考えています。

このため、来年度開校する厚狭明進高校においては、新設する生活創造科に服飾、食物、保育等のより専門性の高い選択科目を設けることとしており、地域の枠を超えて広く社会と連携し、課題解決型学習や実践的な教育活動の充実を図っていきます。

県教委としては、引き続き、少子化に対応した教育環境の整備や、地域・社会と連携した教育を推進していきます。



答弁する  
繁吉教育長

## 第10回やまぐち高校生県議会で可決された意見書

「男性の育児休業取得率向上のためのサービスロボット導入を求める意見書」

男性の育児休業取得率の低い産業において、作業効率を上げ、人手の余裕を持たせることにより、育児休業取得率を上げるために、サービスロボットの導入を求める意見書を、高校生議員47名全員の賛成で可決しました。

(代表提案者:豊浦高等学校 桑野 羽桜さん)



提案理由を説明する桑野議員

## 決意表明

高校生議員を代表して、

「山口県民の一員として持続可能な未来社会に貢献し、誰もが暮らしやすく、希望にあふれた山口県の実現のために、積極的に尽力し続ける。」と決意表明をしました。



決意表明する立野議員

(決意表明者:下松高等学校 立野 嬉杏さん)

宇部・萩地域の高校生議員の皆さん

(厚狭高等学校)

金子紗奈さん 山本美桜さん

(美祢青嶺高等学校)

池部理穂さん 沼本望君

(慶進高等学校)

福岡綾乃さん 松原怜香さん

(萩光塩学院高等学校)

秋田浩善君 實藤悠月さん

## 記念撮影



山口県議会のホームページには、これまでの高校生県議会の概要をはじめ、議会に関するいろいろな情報が掲載されています。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/site/gikai/>